

1月14日(木曜日)「主の山に備えがある」

【新改訳 2017】

創世記 22・14

「そしてアブラハムは、その場所を、アドナイ・イルエと名づけた。今日でも、『主の山の上には備えがある』と言い伝えられている。」

昨日学んだように、神はご自身で選び用いようとされたアブラハムに、祭壇を築いて子イサクをささげるように命じられました。彼らが献身と服従に合格した時、イサクを火で焼いていけにえとする代わりに、一頭の雄羊を備えてささげました。その時、父アブラハムは「主の山の上には備えがある」と言ったのです。

神に従う時にも、先が見えないこと、わけがわからないこと、いろいろなことがあります。しかし、神のみことば(聖書)を正しく理解して信頼するならば、必ず神の備えを見いだすでしょう。私も三十数年前、献身したころ、子どもたちのミルク代や学費に窮したことがありました。でも、祈りつつみことばを与えられ一歩進んだ時、重役待遇のアルバイトが入ったことがあ

ります。神の側にはいつも備えがあることを面白いほど体験
させていただきました。神を信じて従いましょう。

～祈り～

主よ。あなたが人に何かをさせられる時には、必ず必要な備
えがあることを信じてお従いできるように、信仰を増してくだ
さい。

【学びのために】

「主の山」とは、モリヤの山(創世 22・2)でした。それから、『主に
従って何かをしようとするときの困難な状況』を指しても用い
られます。そのための神の備えは、私たちの思いと異なること
がありますが、いつもそれ以上です。